



解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

2025. 7月第680号

発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

「2025年7月に日本に大災害(大地震・大津波)が起こる」。漫画家某氏の予言が流布され、瞬く間に広がり、香港においては日本行き航空券の予約が3割減少したという。NHKでもこのニュースを取り上げ、根拠のない災害予言の拡散が懸念されている。おそらく、このアシュラム誌が届く頃、その真偽は明らかになっているだろうが、その影響力の大きさは看過できないものがある。

歴史を顧みれば、人々は常に「この世の終わりの日」を恐れ、怯え、また無関心を装ってきた。しかし、時には極端な終末思想として、しばしば悲劇を生み出してきただけだ。1978年の人民寺院事件や1993年のブランチャディアン銃撃事件、1995年のオウム真理教によるテロなど、記憶に新しい。これらは極端な事例にすぎないが、終末思想自体はキリスト教信仰の重要な側面である。

たとえば、中世ヨーロッパに建てられたゴシック大聖堂は、『黙示録』の「新しいエルサレム」を象徴している。しかしながら、世の終わり、また再臨の約束は古来より嘲笑や皮肉の対象でもあった。「主が来るといつか」という約束は、いつかどうなるのか(Ⅱペト3:4)、「食

瞑想

葉が始めると、それを見て、既に夏の近づいたことがおのずと分かる

(ルカ21:30)

主幹牧師 榎本 恵

のずと分かる(ルカ21:30)。主は終末が季節の移り変わりのように訪れると語り、「その時はいつか」と問う人々に対して、「惑わされないように気をつけなさい」(同21:8)とまず警告された。その後、終末の予兆が順に語られ、やがて「神の国が近づいていると悟りなさい」(同21:31)と続くのだ。

私たちは、いちじくの葉の一篇を紹介しよう。

「はつ夏の さむいひかげに田圃がある／その周りにちさい ながれがある／草が 水のそばにはえている／みいんな いいかたがたばかりだ／わたしみたいなものは 顔がなくなるようなきがした」(『貧しき信徒』「水や草はいい方方である」より)

友よ、あなたの目はどこにあるのか。いちじくの葉に夏を見る者となろうよ。

榎本恵著「負けて勝つとは」 書評より2 山岡三治

(当時上智大学神学部助教授・イエズス会神学院院长)



ヌチドウタカラは「負けて勝つ」とも結びついている。それは弱者のあきらめではなく、勝つまで続ける忍耐と勇気であり、単なる机上の理論ではない。彼は平和運動の模範とするべき沖縄基地闘争に大きな役割を果たした。



ただ、このラビリンスを歩くために。
(ここに来た理由…)

この闘争は貧しく弱い沖縄農民の手で始められた。教会も政府もだれも協力ししてくれなかったにもかかわ

らず、権力と法律で向かってくる米軍に対し、農民たちは道理と正義、そして共感をもって闘い、非暴力の「陳情規定」をつくり、「乞食行進」という独特の方法で人々に訴え、決して感情的にならず、淡々と交渉をすすめた。そして島の60%以上を占めていた軍用地を半分に減らす決断にまで至らせた。それは阿波根氏の「負けて勝つ」つまり「勝つまで続ける」確固たる信念に多くを負っているのである。

鄧永晴(ながは) 今回のアシュラム センターを訪ねた旅は、ただ静かに黙想するだけの時間ではなく、神様の細やかでありながらも控えめで優しい愛を深く感じるものとなりました。

去年ILITのキャンプに参加した際に、光太さんと出会い、そこから日本と台湾の間に「愛修會」と

真つ只中にも現れる人間のすばらしさを賛美するようになった。暗い黙想ではなく、明るい未来を築く黙想である。

近年になって「伊江島平和アシュラム」を開始したのもその流れの結果であろう。主のことばに聴き、あらゆるものを通して、黙想のうちに語る神、平和の神に聴く人こそ現実の世界に

あつて「主の平和」を創り出すのだ。

今日の沖縄も苦勞が多い。平和や自然の美名のもとに開発が進み、人の心も吸収されてゆくが、本書の「沖縄の目線」がいまいちど多くを目覚めさせてくれることを願うものである。(完) (本のひろば) (日本キリスト教団出版局) 掲載(ロヨラハウス館長)

アシュラムセンターを訪ねて

いう組織があることを知り、今年の春にその愛修會を訪れる機会を得ました。

到着して最初の朝の出来事が、私にとって非常に印象的でした。早朝の祈祷会が終わるとすぐ、皆がそれぞれの役割を分担して忙しく動いており、その中にあるチームワークや楽しい雰囲気は、私の想像をはるかに超えるものでした。私はも

ともと掃除などの作業が苦手なのですが、主にあつて共に働き、互いに協力することによって、元々苦痛だったはずの作業が、皆で力を合わせて取り組む目標となり、しかも非常に効率よく終えることができました。この体験は、教会で奉仕する私にとって大きな気づきとなり「主のために働くことは、心から喜びを感じられることなのだ」と教えられたのです。

また、三重・愛農学園で行われたアシュラムでは、主題聖句が雅歌(ソロモンの歌)だったことに驚かされました。これまでこの書についてあまりよく知らなかったのですが、じっくりと読んでみると、それが自然や愛への賛美に満ちた、神様の芸術性と感情が豊かに表現された書であることがわかりました。

雅歌2章11節には、

這次來到日本愛修會不只是安靜靈修的旅程，更深深地感受到甚麼是上帝無微不至卻又溫柔低調的愛。一次參加教會營隊認識了光太先生，進而知道了原來日本和台灣有著「愛修會」這個組織，並且在今年春天有機會到此一訪。來到這裡的第一個早上就讀我非常印象深刻，一大早禱告會結束就看到大家分工合作忙碌著，每個人之間的默契和愉悅是我完全沒有想過的！身為一個不喜歡清掃工作的人，第一次發覺原來在主裡同工、彼此配合，原本的苦差事可以變成大家共同努力的目標，並且在非常有效率的時間裡完成。這真的讓在教會服事的我有新的領悟，原來為主做工也可以發自內心地感到喜悅。

在三重的全天愛修會裡，讓我驚訝的是主題經文竟然是雅歌！以往對這個經卷沒有太多的認識，細細讀來才知道，這是本充滿對自然和愛的歌頌，是上帝富有藝術和情感所創造的書卷。雅歌 2:11 說，「因為冬天已過，雨水止息，已經過去了。」這是上帝許下多麼大的盼望呀。在這個汲汲營營的世界活著，我們難免悲傷、有時迷惘，甚至有誤入歧途的時候。我們在低谷的時候往往認定這就是絕路，就如但丁《神曲》中刻在地獄之門上的文字——「入此門者，必當放棄一切希望。」只要沒有盼望，人活著就會失去意義。當我們都要放棄自己的時候，這句經節就像強力而溫暖的手，把我們從暴風雪中拯救出來，這是上帝如此真實的應許呀，告訴我們不要害怕，因為總會有希望。

在三重農業學校，我坐在櫻花樹下讀著雅歌書，春天冷冽清新的空氣迎面拂來，正如 2 章 12 節所說「地上百花齊放，百鳥齊鳴的時候已經來到；」究竟為甚麼聖經裡會出現這麼一個與眾不同的經卷呢？我想，是因為內心柔軟的上帝想讓我們知道，他懂得我們任何一個細微的感受，他也用像愛人般的純粹和全心全意愛著我們。春天的一草一木全都是上帝的創造，每次看了都不禁要讚嘆上帝無窮的創意力，我們小時候都畫過，光是要設計三種不一樣的花都很困難了，何況是世界上所有花鳥百獸呢？

「ごらん、冬は去り、雨の季節は終わった」とあります。これは、神様が私たちに与えてくださった、どれほど大きな希望でしょうか。

この忙しい世界で生きる中で、私たちはしばしば悲しみ、迷い、あるいは道を誤ってしまふことがあります。

「ごらん、冬は去り、雨の季節は終わった」とあります。これは、神様が私たちに与えてくださった、どれほど大きな希望でしょうか。

「ごらん、冬は去り、雨の季節は終わった」とあります。これは、神様が私たちに与えてくださった、どれほど大きな希望でしょうか。

「ごらん、冬は去り、雨の季節は終わった」とあります。これは、神様が私たちに与えてくださった、どれほど大きな希望でしょうか。

三重でのアシラムで、私は桜の木の下に座って雅歌を読んできました。春の冷たく澄んだ空気が顔に吹きつけてきて、まさに雅歌 2 章 12 節の「地には花が咲き誇り、鳥のさえずりが聞こえる季節が来た」を思い起こさせました。どうして聖書にこのように異彩を放つ書があるのでしょうか？それは、心のやわらかい神様が、私たちのどんなに小さな感情にも気づいてくださり、恋人のように純粹で全身全霊で私たちを愛し

ておられることを、知らせたいからなのだと思います。春の一草、一花すべてが神様の創造であり、それを目にするたびに、神様の尽きることのない創造力に思わず感嘆してしまいます。私たちは子どもの頃、絵を描くときにたった 3 種類の違う花を描くのも難しかったものです。ましてやこの世に存在するすべての花や鳥、獣を創造するとは

コロケと美しい歌声と指導、スタッフの皆様の温かいお支えで本当に素晴らしい時を頂けた事、そして全てを備えてくださった神様に心から感謝をするも

修道場アシラムに参加して

高橋 容子

榎本恵先生の素晴らしい導き、またメッセー

ジ、そして康子さん、裕子さん、光太さんの

行き届いたおもてなし、

るつ子さんの美味しい



ゆうがや会参加の学生たちと共に
(前列左から筆者母、筆者)

のです。

素晴らしいヴォーリズの建物、美しい自然、いっぱい写真に収めてお土産にすることが出来ましたこと感謝です。

神様からの恵みを味わいつつ、また、この受けた恵みを伝えていきたいです。

ファミリーの一人として、皆様の為に祈っていきます。

明日の礼拝の祝福を心からお祈りしています。

(日本基督教団)

西野田鶴見橋教会

石野 ゆみ

主の愛、榎本先生の心にささるメッセージ、霊の糧、身体の糧に、心の糧、建物、自然全ての面での温かく豊かな異次元空間の三日間に感謝します。

るつ子さんの素敵な音楽、讚美、スタッフの皆様の食事の準備ありがとうございました。



◀修道場アシュラムのブログラムの一つ。安土セミナーヨ(神学校)跡地まで歩く巡礼の旅。(1580年建立、安土城と共に焼失。現在は、一部整備され公園に。)今回は、雨のため車で。途中、安土で昼食!

康子さん、裕子さん帰りまであちこち案内ありがとうございました。現実の主が置いてくださった場所でもまた日々主と共に歩みます。関わってくださった全てのの方に感謝と主の祝福をお祈りします。(アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団湊南シオンキリスト教会)

大阪聖書教室について (アシュラム誌 1979年3月号より)

榎本保郎先生がアシュラムセンターを近江八幡に置かれたのが1975年8月のことでした。その10月より、センターの行事の一つとして、大阪クリスチャンセンターに於いて『ちいろば牧師入門講座』が開かれました。1977年5月『大阪聖書教室』として歩み出し、その年7月米国に於いて召されるまで、13回開かれました。その同年10月より黒田朔先生が立たれ、そのあとを引き継がれて今日まで毎月開かれて17回に及びました。

榎本先生はなぜ大阪に『ちいろば牧師入門講座』を開かれたのでしょうか。それは先生自らアシュラムの啓蒙のためであると申されていました。

アシュラムとは聖書から正しく聞くことを訓練する場所であり、上を目指し、神がどう考えておられるか、しかも神様は人を通して語りかけられます。それで人からも聞くこと、聞きながら交わって神様のご意思を尋ねてゆく訓練の時であります。近畿地方には、加太アシュラム、阪神アシュラムがありますが、その間毎月大阪聖書教室がアシュラムの訓練の場として用いられていることはアシュラムの啓蒙として、誠に意義あるもので、榎本先生の意図もここにあられたのではないでしょう。

アシュラムに於いて大事なことの一つはファミリーの形式であります。ともに静聴し、恵みを分かち合い、お互いのために祈り、教会に帰って証しと奉仕に励み合う、ファミリーが確立してゆくことが望まれます。そのために、今の時間が延長され、時には半日アシュラム、一日アシュラムを持つように静聴してゆくことが期待されます。

唄野 政一 (2003年9月召天) (日本基督教団堺大浜教会)



伊江島にて。30年ほど前、誕生したての伊江島平和アシュラムに、日本各地、台湾からもご参加下さった応援団! 那覇からセスナ機で! 写真後列左から2人目が、唄野兄。(美寿子姉の後ろ)皆様懐かしい方々!



6月の大阪聖書教室。50年前より途絶える事なく、続けられ感謝。聖書から、お一人お一人から深い気づきを与えられるひととき。写真奥恵師の左、唄野綯子姉。政一兄は義父。

いえじま 雑記 25 福岡に



5月の終わりに、福岡に行ってきました。西南学院高等学校のミッションウィークでお話をするためです。梅雨のただなかの沖縄から、一年でもいちばんいい季節だという春の福岡へ。ひんやりとした風がとても気持ちがよく、海が近いにもかかわらず空気が軽く、いつまでも散歩をしてみたいような気候でした。

ミッションウィークは、三日間で九回の講演、つまり一年生から三年生にそれぞれ話をするというなかなか過酷なものでしたが、未来に溢れた高校生たちの姿が眩しく、何か一言でも彼らの胸に残る言葉があればいいなと思いながら話しました。もちろん空き時間にラーメンやうどんなどを食べ歩きしたことは、言うまでもありません。

三日目の午後には、かなりの強行軍でしたが、新幹線で水俣まで行ってきました。惨事のあとに生きるという点で伊江島とも重なるようなところが多く、痛ましい過去をどのように記憶したらいいのか、水俣の海を見ながらいろいろと考えさせられました。たまに旅をするのもいいものですね。 榎本 空（ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住）

シメオンの風 2 「朝の祈り」 市橋 恵子

5月某日、シメオン黙想の家に常盤台バプテスト教会の友納靖史牧師がポーランドからのお客様ヨナシュ・スクシプコフスキさんと妹のエウニカさんを伴って訪れてくださいました。お二人はワルシャワバプテスト教会でウクライナから逃れてこられた方々の支援をされています。



シメオン黙想の家、応接間にて。左から友納靖史牧師、ヨナシュ、エウニカ・スクシプコフスキ兄妹

今回、ポーランドでの難民支援活動を報告するために来日され、東京での集会を終えて、京都での報告会に向かう前日にシメオン黙想の家に滞在されたのです。

シメオン黙想の家の応接間に案内したときに、ヨナシュさんとエウニカさんの目が壁の絵画にくぎ付けになりました。その絵は林竹治郎の代表作「朝の祈り」※1（1904年）でした。狭い質素な部屋の真ん中にちゃぶ台が置かれその上には一冊の聖書。中学生と思しき制服の男の子によりそう妹と弟、母親に抱きつくように頭を伏せる幼児。ちゃぶ台を囲んで皆で深く頭を垂れて祈っている絵です。少しだけ絵の時代背景をお話しました。この絵に描かれていない父親は日露戦争で出征して不在であることを。二人とも静かにじっと絵を鑑賞されていました。

戦争は戦いの最前線だけではなく、後に残された人たちにも深い影を落とします。お二人にはその絵に込められた思いが伝わっていたのでしょうか。

「子らにのこす ことばはひとつ わが家は 朝な夕なに いのりする家」※2

注 ※1 原画は北海道立近代美術館蔵

※2 詠み人不詳 この歌は「朝の祈り」複製版に記載されている。

ヨナシュさんからの感謝状（※アシュラム・ヨセフ基金より献金させて頂きました）

ご寄付ありがとうございます。皆様のご支援によってプロジェクトに変化をもたらします。マタイによる福音書 25章 40節にあるイエスの呼びかけに応え、皆様のおかげで私たちは使命を果たすことができます。「よく聞きなさい。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者の一人にしたのは、すなわちわたしにしたのである。」



ヨナシュ兄・エウニカ妹、共に早天祈祷会に。

私たちは共に、困っている人々を助け、希望を与え、奉仕することができます。ご寄付は、「かけがえのない家族」プログラムと「新しいルーツ」プログラムを通じて、ポーランドの里親家庭と難民コミュニティを支援するプロジェクトに活用されます。

(www.facebook.com/akcjabach) (www.akcjabach.org) 感謝を込めて ヨナシュ・スクシプコフスキ

あとがき

イエスは主なり
11月24日から26日に開
かれる、アシュラムセン
ター設立50周年記念の講
演会、記念礼拝、そして
国際正義平和アシュラム
の会場が決定した。

最相葉月さんの講演会
は、近江八幡市のヴォー
リス学園教育会館（ハイ
ド記念館）で行われ、そ
の後、会場を大津市のピ
アザ淡海に移し、第20回
国際正義平和アシュラム
が行われる。美しい琵琶
湖を目の前にした、素晴
らしい会場である。中道
基夫関西学院院長を迎え
ての記念礼拝は、大会議
室で、その晩のコンサート
トは、ピアザホールでの
開催となる。

多くの方達と、50年の
記念の年を祝うことを計
画している。どうか、全
国各地のアシュラムの友
が集い、神に感謝を献げ、
共に祈る時を持とう。

「あなたたちは国中に
角笛を吹き鳴らして、こ
の50年目の年を聖別し、
全住民に解放の宣言をす
る。それがヨベルの年であ
る。」レビ 25:9-10

（恵）

ヨセフ基金へのご協力ありがとうございます。この度、ミャンマー地震被災地と、ウクライナ支援のため、献金させて頂きました。



中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり！

【主な問い合わせ先】0748-33-4030 アシュラムセンター
【Zoom・インターネット等 問い合わせ先】080-3983-8140

7月の聖書教室など

4(金)	阪神ミニアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:00)
5(土)	加古川祈りの家 再開! (フリーメソジスト加古川教会 PM1:00)
16(水)	みんなのカフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)
22(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)
25(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)
28(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)
29(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
29(火)	しみじみする会 (桜美林大学 荊冠堂チャペル PM2:30)

7月のアシュラムなど

21 (月・祝)	第28回 福岡一日アシュラム 奉仕者 榎本 恵師	日基福岡中部教会
26(土)	第6回 四国一日アシュラム 奉仕者 榎本 恵師	日基三島真光教会

8月のアシュラムなど

8(金) 9(土)	第1回 こどもアシュラム 奉仕者 榎本 るつ子姉	
10(日)	榎本空 読書会 PM2:30~ 奉仕者 榎本 空兄	
25(月) 27(水)	常任運営委員のための修道場アシュラム 奉仕者 榎本 恵師	

9月以降のアシュラム予定

9月14(日)~15(月)	第5回 ユースリトリートアシュラム
9月15(月)	第32回 岐阜アシュラム
9月19(金)~20(土)	第48回 新潟アシュラム
9月24(水)~25(木)	第13回 日光オリーブの里アシュラム
9月27(土)	第50回 南町田一日アシュラム
10月9(木)~10(金)	修道場アシュラム
10月11(土)~13(日)	修道場アシュラム
10月23(水)~25(金)	第50回 加太アシュラム
11月3(日)~5(火)	第50回 京浜アシュラム
11月24(月)~26(水)	アシュラムセンター創立50周年記念 第20回 国際正義・平和アシュラム in 近江八幡
2026年1月12(月)~14(水)	第51回 年頭アシュラム

台湾原住民のための献金のお願い

創立50周年記念の演奏会で、台湾原住民の
聖歌隊の方々をお招きするためのご献金をお
願い申し上げます。目標金額 100万円

キャッシュレス献金はこちらのQRコード
または「オンライン献金.com」と検索ください。
アシュラムセンター運営
記号番号 01050-6-53772



みことば



日本キリスト教団 豊島岡教会
南花島集会所 牧師 江口公一

4章 「ところで、わたしたちは、このような
宝を土の器に納めています。」(Ⅱコリント 4：
7)

軽井沢アシュラムの帰りに、当時雲場池通り沿
いにあった素敵なカフェ、コクーン・ティー・
ガーデンを訪れた時期があった。恩師の大塩清之
助先生が一度だけ参加された時に、「妻の姪が夫
婦で営んでいるから」と誘われて入った店。こだ
わりのブレンド紅茶とコーヒー、自家農園で採
れた野菜が魅力的だった。その夫君がガンにか
かり余命いくばくと聞いた年の訪問で、夫君は
自宅からわざわざ車で来てくれた。待っている
間に祈って聖書を開き目に飛び込んで来たのが
この聖句だった。しかし、「このような宝」とは
何か確信を持って分らなかった。木漏れ日のポ
ーチで共にコーヒーを飲みながら初対面の歓談
をした後、私はこれから死に臨む夫君にこの4
章を読んで語った。

しかし、それは生けるキリストをお引き合
わせるに至らなかったと思う。私は悔いた。それ
以来、ここでパウロが言う「宝」とは何かがず
っと心に引っかかっていた。

この「宝」とは、5節でパウロ達が宣べ伝
えた「主であるイエス・キリスト」だと今は確
信する。また、5節の後半は「イエスの故にあ
なた方に仕える僕としてのわたしたち自身を」
宣べ伝えたとも訳せる事と、12節で「わたした
ちの内には死が働き、あなたがたの内には命
が働いている」と語っている事から、「土の器
」とは、単に陶工である神様が造られた壊れ
やすい被造物を指すだけではなく、争い合う
コリント教会の人々に和解の言葉をかけるが
なかなか受け入れられないパウロ達である。
同時に、パウロ達が倅う、人と同じ「土の
器」になってその罪を負って十字架にかけられ
赦しのために祈り、共に滅んで下さるキリス
トでもある。それは神様の救いのご計画だ。

キリストに倅うパウロ達が「わたしたちは、
このような宝を土の器に納めています。」と語
る時、それはこれを聞く人にも神様はその事
を実現してくださる、と信じて語っているの
だと思う。もう一度夫君に会えたなら、私
はこの事を語り合いたい。



〈早天祈禱会での祈り〉火で練り固められた

あなたの言葉に

聴いていく者、又、語っていく者となれますように。

(詩12)

榎本恵(64才!)

流し共に種を蒔く人は、喜びの果を共に刈り入れる。

榎本恵